

サイバー対策 導入期間短いソフト セキュシャードが開発

フィンテック企業の SecureShard（セキュシャード、東京・新宿）はデータを分散・管理してサイバー攻撃を防ぐ技術を開発した。脆弱性診断やシステム更改が不要

で、最短数週間で導入可能なのが特徴だ。

米新興企業アンソロピックが開発した「Claude Mythos（クロード・ミュトス）」などシステムの脆弱性の発見に優れた人工知能（AI）が登場するなかで、中小企業などへの普及を目指す。

秘密分散技術によりデータを複数の断片にして保管する。仮にハッカーが一部のデータを取得・改ざんしても断片単体では意味のある情報を得られずデータ漏洩や破壊を防ぐ仕組みだ。

従来のセキュリティ

対策はシステムの脆弱性診断だけで数カ月を要するのが通例だった。既存システムとサーバーの間にソフトを配置することで、導入の期間を短縮した。初期コストを数十万円に抑え、サイバー対策が手薄な中小企業が導入しやすいようにする。

経済産業省はセキュリティ対策状況を共通の基準で評価し、見える化する仕組み「SCS評価制度」を今年度内に始める予定だ。評価を取得していない企業は新規受注の停止や契約条件の見直しなどを求められる可能性がある。